

令和7年度 鳥取沿岸土砂管理連絡調整会議(中部地区) ＜要旨＞

天神川河口 R7年6月23日撮影

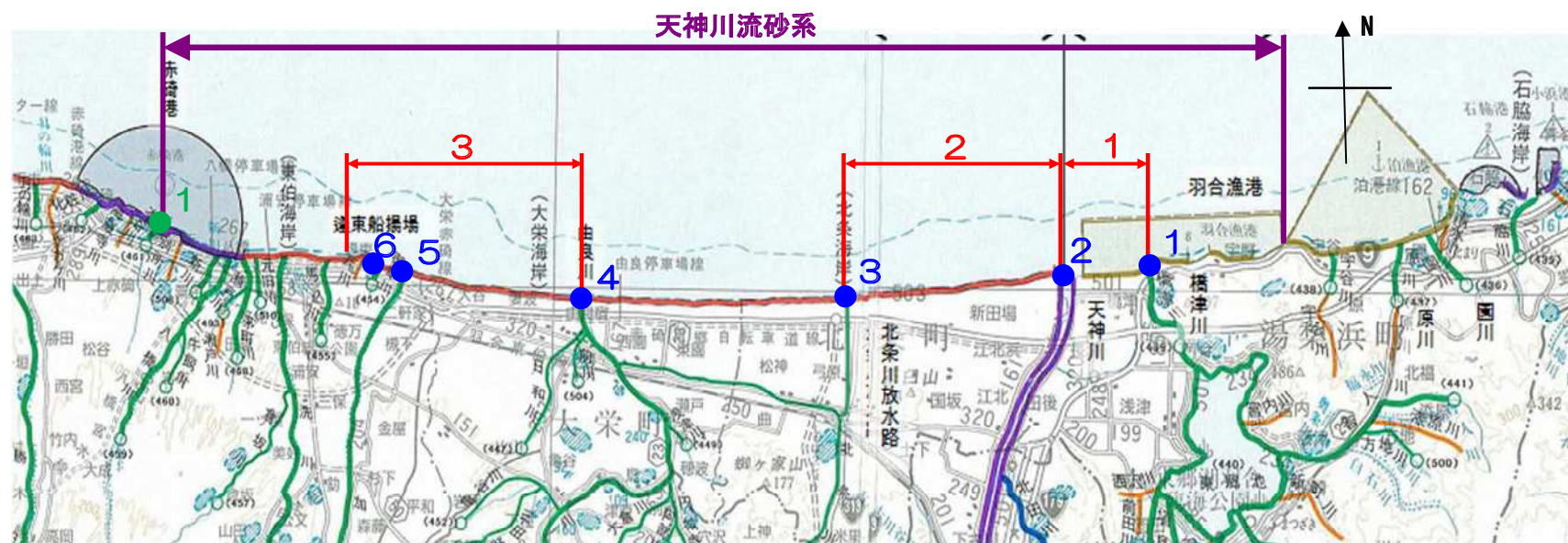


鳥 取 県

➤中部地区の対象範囲

1

- ・本会議では、赤文字1～3の海岸を対象に評価を行う。



※赤色の範囲が対象範囲
※紫色の範囲は、ガイドライン対象範囲

海岸					河川					港湾・漁港				
名称		管理者	種別	R6実施事業	名称		管理者	種別	R6実施事業	名称		管理者	種別	R6実施事業
1	天神川右岸地区	湯梨浜町	漁港海岸	サンドリサイクル	1	橋津川	鳥取県	二級河川	-	-	-	-	-	-
					2	天神川	国土交通省	一級河川	-	-	-	-	-	-
2	天神川左岸地区	鳥取県	建設海岸	汀線・深浅測量 サンドリサイクル	3	北条川放水路	鳥取県	二級河川	河口掘削	-	-	-	-	-
					4	由良川	鳥取県	二級河川	河口掘削	1	赤碕港	鳥取県	地方港湾	航路・泊地浚渫
3	由良川左岸地区	鳥取県	建設海岸	汀線・深浅測量 サンドリサイクル	5	加勢蛇川	鳥取県	二級河川	-	-	-	-	-	-
					6	御幸川	鳥取県	二級河川	-	-	-	-	-	-

➤対象範囲の波浪(ナウファス鳥取)

2

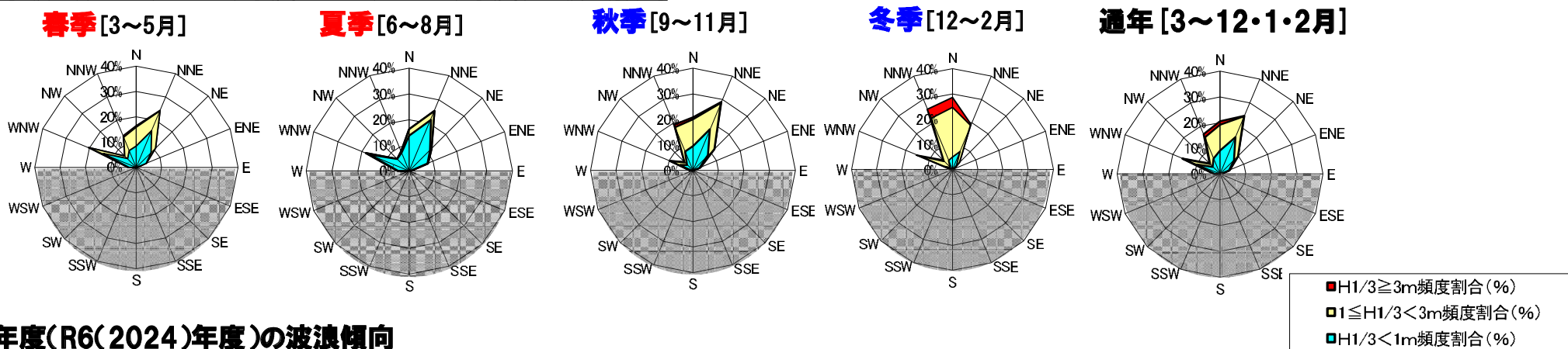
【中部地区における波浪】

- NOWPHAS鳥取港では、年間を通じて、北北西～北北東方向にかけての波浪の出現頻度が多い傾向にある。近年波浪出現頻度は、有義波高1m未満で59%、有義波高1～3mで37%である。有義波高3m以上の波浪の出現頻度は、全体を通して4%と少ない傾向にある。
- R6（2024）年度の冬季は、例年に比べ北と北北東からの波浪出現頻度が少ない一方で、北北西からの入射割合が大きくなった。また、秋季において北北東からの入射の割合が大きくなった。

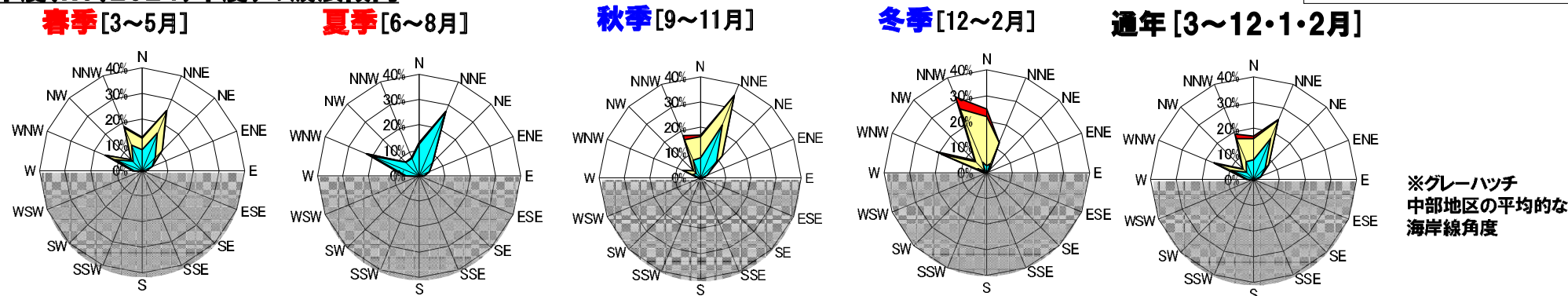


出典:NTTインフラネット, DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.一部加筆

近年波浪(H17(2005)年度～ R6(2024)年度)の波浪傾向



昨年度(R6(2024)年度)の波浪傾向



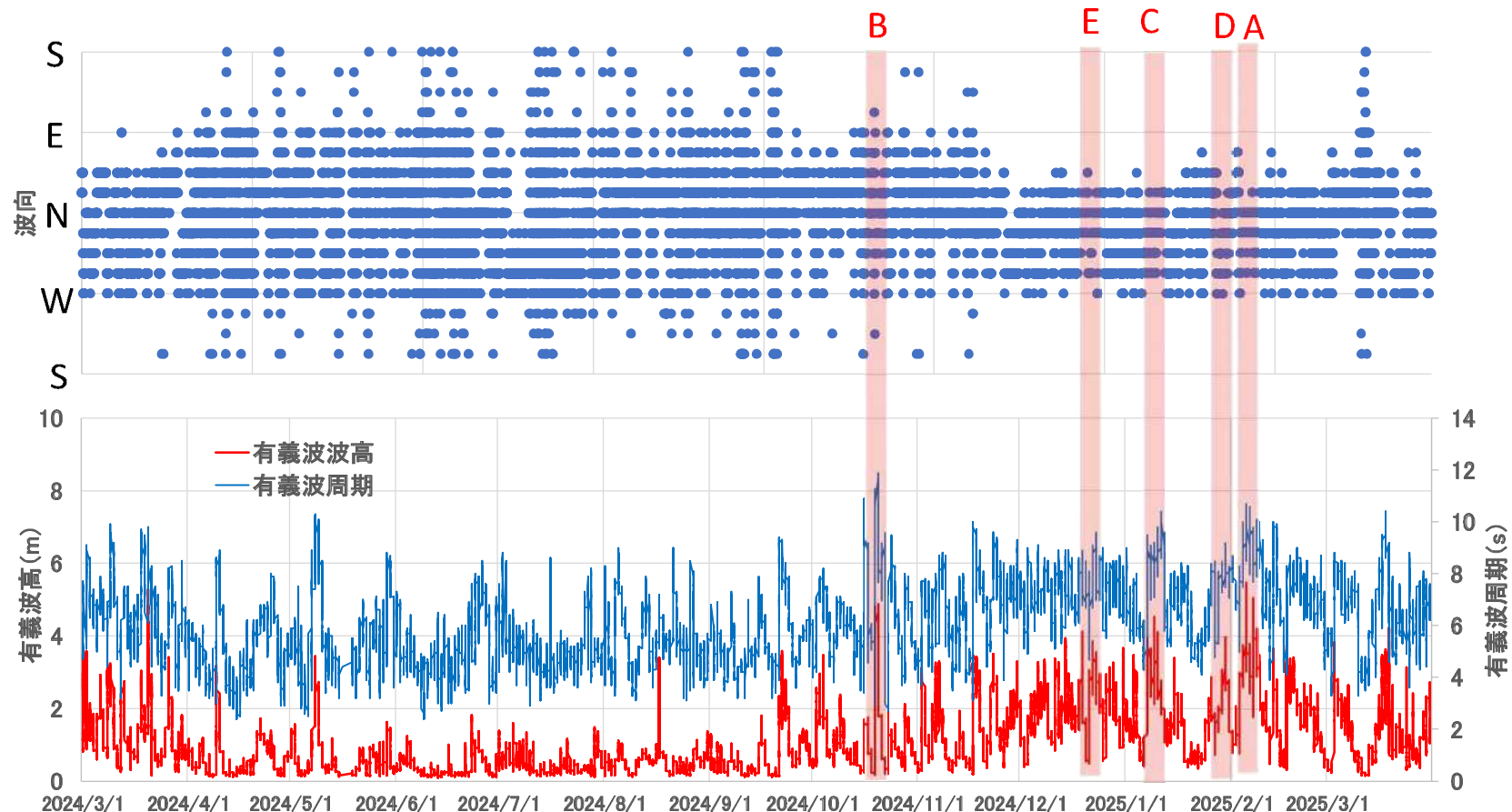
【ナウファス鳥取港のR6（2024）年度の波浪特性】

■R6（2024）年度に観測された高波浪の上位5波は、低気圧及び冬型の気圧配置によるものであった。

■S54(1979)年度から観測されている高波浪上位20位以内（P.4参照）に入る高波浪は発生しなかった。

R6(2024)年度の上位5波

番号	発生日時	波高 (m)	周期 (s)	波向 (°) /16方位	要因
A	2025/2/5 16:20	5.48	9.7	欠測	低気圧
B	2024/10/20 1:40	4.90	11.9	340° /NNW	冬型気圧配置
C	2025/1/9 14:40	4.53	8.8	290° /WNW	低気圧
D	2025/1/30 13:20	3.98	9.1	352° /N	冬型気圧配置
E	2024/12/14 6:00	3.93	8.4	348° /NNW	冬型気圧配置



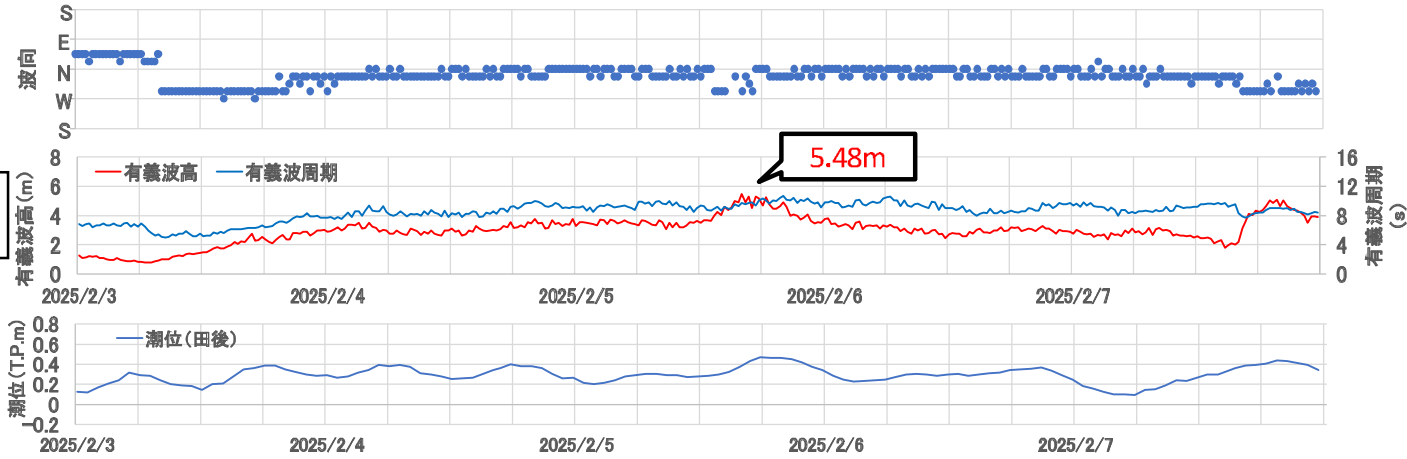
R6(2024)年度の波浪の時系列図(2024年3月1日～2025年3月31日)

(上:波向き、下:有義波波高、有義波周期)

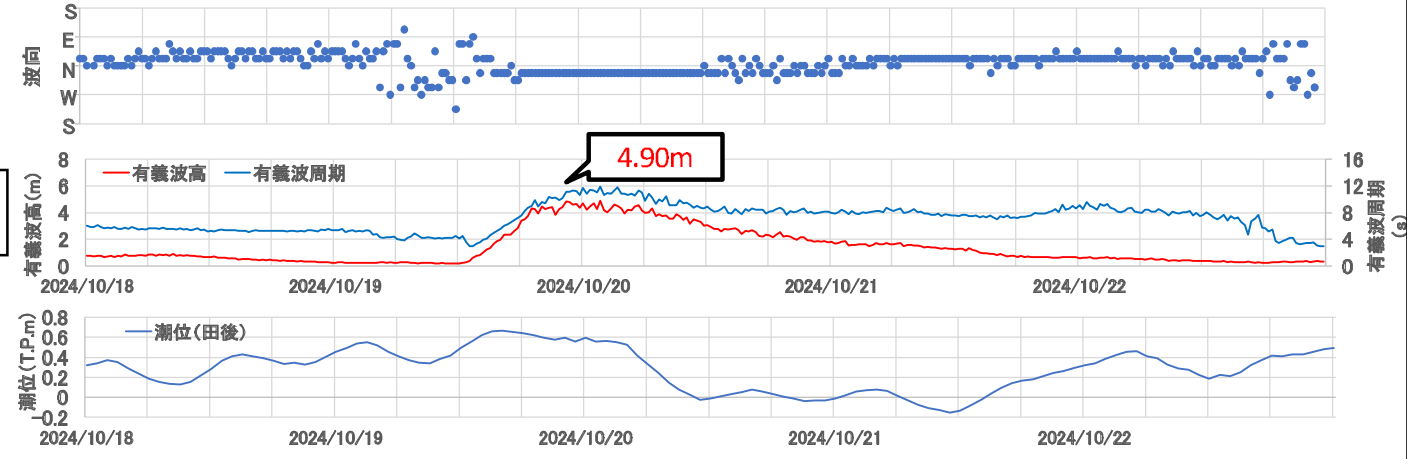
➤ナウファス鳥取港の観測結果 【 R6(2024)年度の上位3波】

4

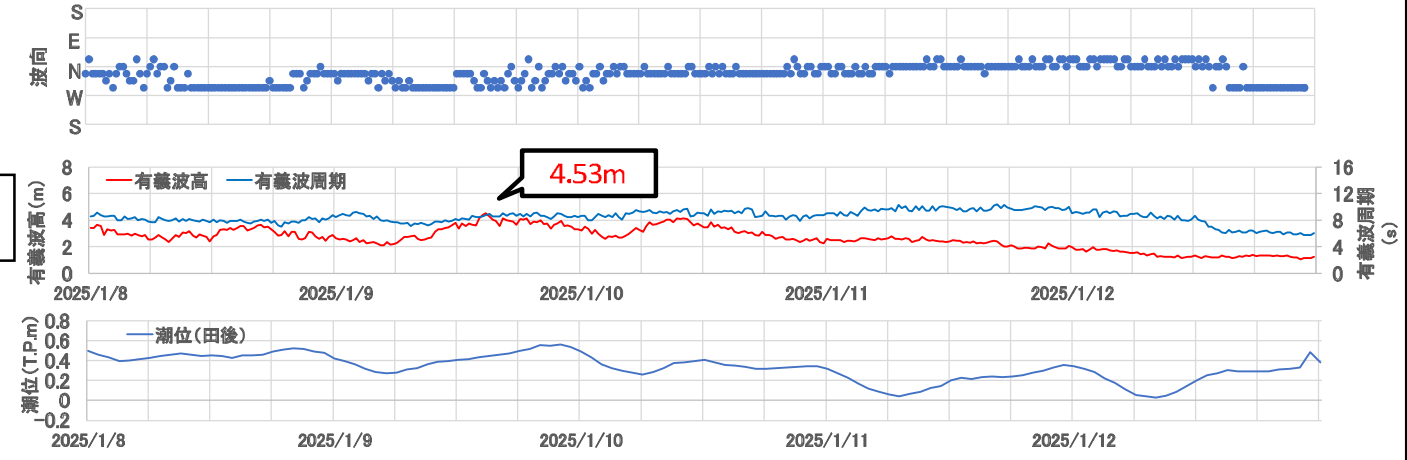
A



B

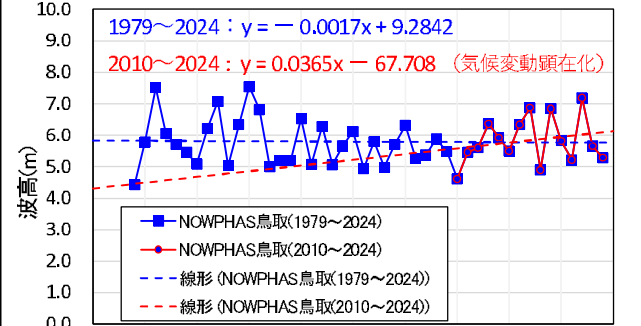


C



(参考) 1979～2024年度の上位20波

No	発生日	最大有義波高(H1/3)		要因
		波高(m)	周期(s)	
1	1990/12/11	7.54	11.3	低気圧
2	1981/12/2	7.51	11.2	低気圧
3	2022/9/20	7.19	11.9	台風第14号
4	1987/2/3	7.08	11.1	低気圧
5	2017/10/23	6.88	12.0	台風第21号
6	2019/10/13	6.85	12.2	台風第19号
7	1991/2/17	6.81	12.2	低気圧
8	1990/12/27	6.53	11.8	低気圧
9	1995/12/26	6.53	11.1	低気圧
10	2013/10/16	6.37	10.0	台風第26号
11	1989/11/1	6.33	11.3	低気圧
12	2016/1/20	6.33	11.3	冬型気圧配置
13	2005/1/17	6.31	10.5	冬型気圧配置
14	1997/1/21	6.28	10.1	冬型気圧配置
15	1986/12/28	6.22	9.9	低気圧
16	1986/12/19	6.18	10.6	低気圧
17	2000/2/8	6.12	10.1	低気圧
18	2005/10/23	6.07	10.3	低気圧
19	1982/11/24	6.05	9.2	冬型気圧配置
20	2005/12/18	6.04	10.3	冬型気圧配置



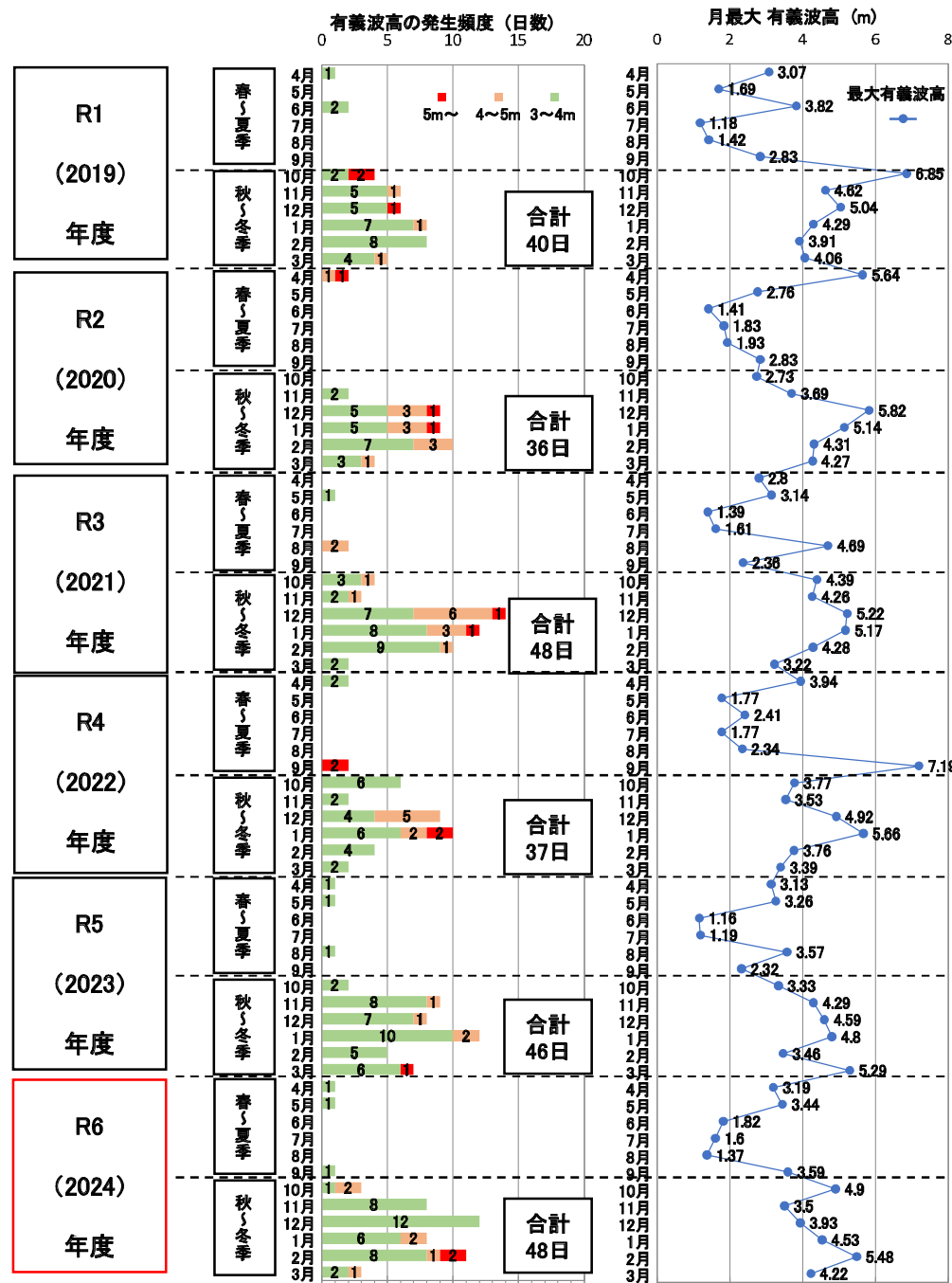
1975 1980 1985 1990 1995 2000 2005 2010 2015 2020 2025

※青点線は観測以降の近似式、赤点線は気候変動の影響が顕著な2010年以降の近似式を示す

(参考) S54(1979)年～R6(2024)年の
年最大有義波高の経年変化

➤ナウファス鳥取港の高波浪出現状況【R1(2019)年度～R6(2024)年度】

・3m以上の波高の出現日数は、例年と比べ若干多くなった。



R1(2019)年度

- ・春～夏季: 4月と6月に高波浪が発生。7月～9月の波浪は他年度よりも穏やか。
- ・秋～冬季: 平成30年度に次いで3m以上の高波浪の発生回数が少ない。有義波高の最大値は10月(台風)に発生。

R2(2020)年度

- ・春～夏季: 4月に4mを超える高波浪が2日発生。6～10月は台風の影響がなく穏やか。
- ・秋～冬季: 5mを超える高波浪が2か月連続で観測。有義波高の最大値は12月(冬季風浪)に発生。昨年よりも4mを超える高波浪の頻度が多い。

R3(2021)年度

- ・春～夏季: 5・8月に高波浪が発生。
- ・秋～冬季: 5mを超える高波浪が2か月連続で観測。有義波高の最大値は12月(冬季風浪)に発生。3m以上の高波浪が48日間発生しており、例年に比べ発生回数が多い。

R4(2022)年度

- ・春～夏季: 4・9月に高波浪が発生。有義波高の最大値は9月(台風)に発生し、7mを超える高波浪を観測。
- ・秋～冬季: 4mを超える高波浪が2か月連続で観測。3m以上の高波浪の発生回数は例年程度である。

R5(2023)年度

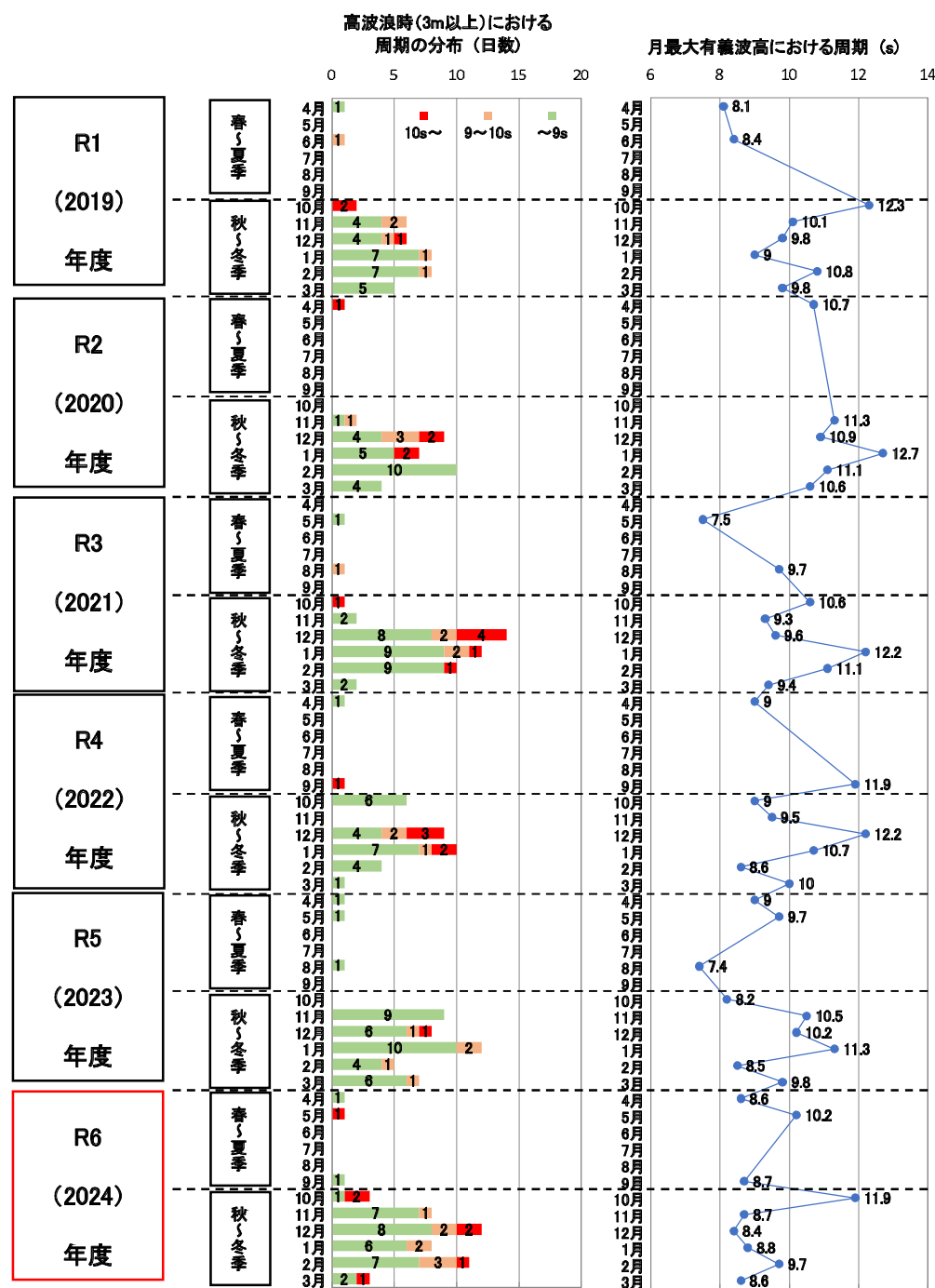
- ・春～夏季: 4・5・8月に高波浪が発生。
- ・秋～冬季: 令和3年度に次いで3m以上の高波浪の発生回数が多い。有義波高の最大値は3月(低気圧)に発生。

R6(2024)年度

- ・春～夏季: 4・5・9月に高波浪が発生。
- ・秋～冬季: 有義波高の最大値は2月(低気圧)に発生。3m以上の高波浪が48日間発生しており、例年に比べ発生回数が多い。

➤ナウファス鳥取港の長周期出現状況【R1(2019)年度～R6(2024)年度】

- ・高波浪時に10s以上の周期が7日観測された。



R1(2019)年度

- ・春～夏季: 10s以上の長周期は発生なし。春～夏季の最大有義波高(6月)の周期は8.4s。
- ・秋～冬季: 10月、12月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(10月)の周期は12.3s。

R2(2020)年度

- ・春～夏季: 4月に10s以上の長周期が発生。春～夏季の最大有義波高(4月)の周期は10.7s。
- ・秋～冬季: 12月、1月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(12月)の周期は10.9s。

R3(2021)年度

- ・春～夏季: 10s以上の長周期は発生なし。春～夏季の最大有義波高(8月)の周期は9.7s。
- ・秋～冬季: 10月、12～2月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(12月)の周期は9.6s。

R4(2022)年度

- ・春～夏季: 9月に10s以上の長周期が発生。春～夏季の最大有義波高(9月)の周期は11.9s。
- ・秋～冬季: 12月、1月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(1月)の周期は10.7s。

R5(2023)年度

- ・春～夏季: 10s以上の長周期は発生なし。春～夏季の有義波周期(8月)の最大値は7.4s。
- ・秋～冬季: 12月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(3月)の周期は9.8s。

R6(2024)年度

- ・春～夏季: 5月に10s以上の長周期が発生。春～夏季の最大有義波高(9月)の周期は8.7s。
- ・秋～冬季: 10月、12月、2月、3月に10s以上の長周期が発生。秋～冬季の最大有義波高(2月)の周期は9.7s。